実用新案登録
第1962724号

油圧薪割機

1130000 L

取扱説明書

WS-190
WS-350VSシリーズ
(WS350VS・WS350VSL)
WS-500シリーズ
(WS500・WS500L・WS500SL)
WS-750シリーズ
(WS750VS・WS750L・WS750SL)

ご使用前に是非本書をご覧の上、末長くご愛用下さい。

安全作業のために、必ず守っていただきたいこと

⚠危険 手をはさまないよう注意して下さい。

《保護具(メガネ、帽子、手袋、安全ぐつ)を身につけて作業して下さい。》

作業中手足を挟まれない様充分に注意して下さい。
割刃の先、後部あて板、割木の間等に手や足を置いて作業しますと手足を挟む可能性があり、非常に危険です。トリイ部には手を絶対にかけないで下さい。

作業中は5m以内に人を近づけないで下さい。

⚠警告

乾燥した木を割る場合、割れる時点で木が左右に跳びはねる場合があり非常に危険ですので身体は木材より離して、レバーより後部で運転して下さい。

⚠注意

運転中と運転後、エンジン及びマフラーに触れると火傷をする恐れがありますので絶対に触れないで下さい。

⚠注意

オイルポンプユニットは絶対に分解しないで下さい。分解されますと部品供給及びクレーム処理等は受け付けできません。

和光商事株式会社

◆ はじめに ◆

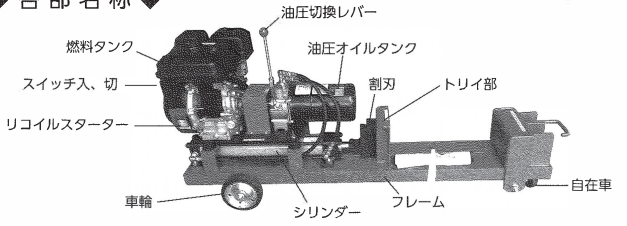
このたびは和光商事の強力油圧式「薪割機をご購入下さいまして誠にありがとうございます。

WS-500 シリーズと WS-750 シリーズには自動バック装置 (実用新案登録第 1962724 号) を取り付け、操作が簡単に出来るように設計されていますので、どなたでも安心してご使用出来、しかも今までの様な薪割の苦労はなくなり、作業の能率化が図れます。

安全にご使用いただくために後記の事項を厳守されてご使用下さいます様お願い致します。

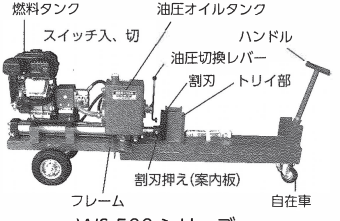
割刃の走って行く先に手や足を絶対に入れないで下さい。

◆ 各部名称 ◆

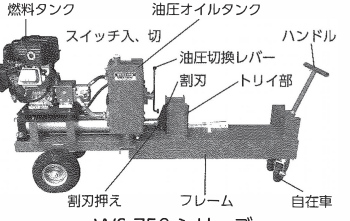


WS-190 、350VS シリーズ

※(WS-190、350　ーズは、油圧ポンプ回転軸に、ゴミ等が付着しますと、油もれの原因となりますので、エアブロー等で清掃して下さい。)



WS-500 シリーズ



WS-750 シリーズ

◆ 操 作 順 序 ◆

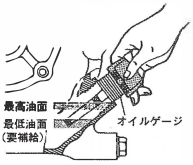
（注）WS-190 、350VS シリーズと WS-500 シリーズ、750 シリーズとの区別がない項目は操作が同じです。

(1) 燃料タンクへの給油



・エンジンの燃料タンクにガソリンを満タンに入れて下さい。
・燃料は自動車用普通ガソリン（無鉛）を使用して下さい。
・燃料補給は燃料コックを閉じて行います。
・燃料注入時には、注入口に装着しである燃料コシ網を必ず使用して下さい。
・燃料がこぼれたら、きれいにふき取ってから始動して下さい。
・長期間使用しない場合は、ガソリンを抜いて下さい。
放置するとガソリンが劣化してエンジンが始動しなくなります。

(2) オイルタンクへの給油



・エンジンのオイルタンクにエンジンオイルを満タンに入れて下さい。
・オイルはエンジンを水平に置き、注入口からオイルゲージをねじ込まないで計り、上のきざみ線まで入れて下さい。
・エンジンオイルが汚れていたり、少なかったり、品質の悪い物を使用しますとエンジンの寿命を縮めます。常に良質できれいなオイルを規定量保つよう注意して下さい。

（注）エンジンオイルの量は毎日点検して常に補充しておいて下さい。

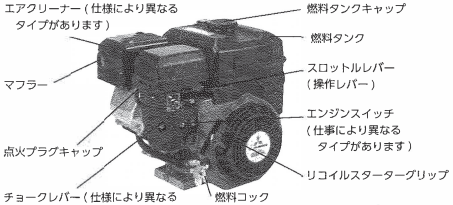
(3) 油圧オイルの給油

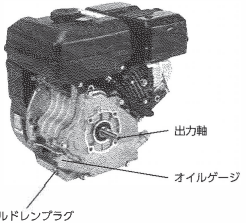
（イ）WS-188 、WS-350VS シリーズ
油圧タンクに油圧オイル（作動油）を入れて下さい。満タンに入れないで８分目位にして下さい。

（ロ）WS-500 シリーズ、WS-750 シリーズ
油圧タンクに油圧オイル（作動油）を入れて下さい。満タンに入れないでレベル・ゲージの中途以下にして下さい。

（注）本機納品時には油圧オイルは入っています。油圧オイルは常時給油の必要はありません。

(4) エンジンの各部名称





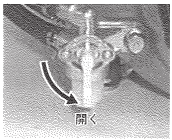
※エンジンマニュアルを参考に、メンテナンスは付属工具にて行って下さい。

(5) エンジンの始動、運転、停止

・エンジンを始動させる前には本取扱説明書の「安全にお使いいただくために」及び「エンジン運転前の点検」を良く読み、理解したうえで操作してください。

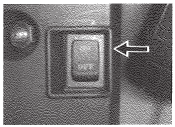
始動

燃料コック



燃料コックを開く。

エンジンスイッチ



エンジンスイッチを
始動側 (ON) にする。

始動したら

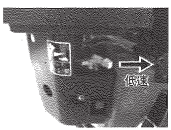
・始動後エンジンの調子をみながら徐々にチョークレバー全開の位置に戻す。
（運転調子が安定しない場合は、チョーク半開位置で暖機運転し、様子を見てください。）

⚠注意
始動後は必ずチョークレバーが全開になっている事を確認してください。
チョークが閉じた状態で運転するとエンジン不調の原因となります。

・暖機運転（約５分）終了後は、所要の回転速度にスロットルレバーを合わせご使用ください。

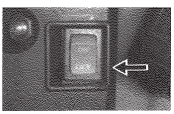
停止

スロットルレバー



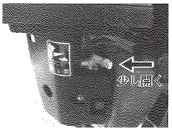
スロットルレバーを低速の位置にして1~2分間運転する。

エンジンスイッチ



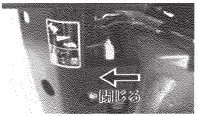
エンジンスイッチを停止側にする。又はキースイッチを停止位置 (OFF) にする。

スロットルレバー



スロットルレバーを高速の方に少し開く。

チョークレバー



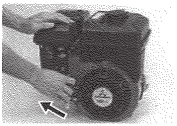
チョークレバーを全閉にします。

⚠注意
暖かい時の使用（概ね気温 35℃以上）や、運転停止直後の再始動時は、全開又は半開にて始動を試みてください。

セルスターター始動

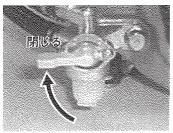
・キースイッチを「始動」に合わせ始動する。
・セルモーターを 5 秒まわしても始動しない時は、5 秒休んで再始動してください。
・スイッチは始動位置から手を離すと自動的に「運転」に戻ります。

リコイル始動

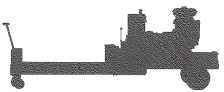


・スターターグリップを握り圧縮位置まで軽く引き、この位置から勢い良く引っ張る。
・エンジンが始動したらスターターグリップをゆっくりと元の位置に戻す。

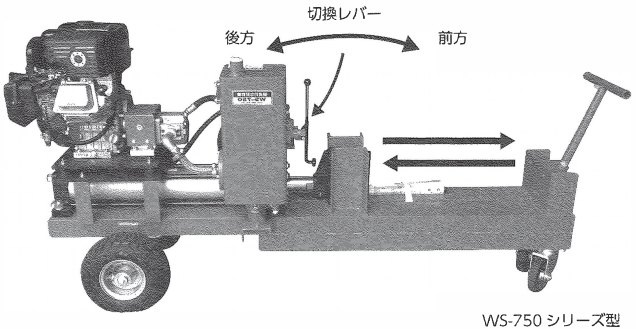
燃料コック



燃料コックを閉じる。



(6) 油圧手動切換レバーの操作　※操作レバーを強く動かしても、薪の割れる力は変わりません。



WS-750 シリーズ型

(イ) WS-190 、WS-350VS シリーズ

手動切換レバーを前方の矢印方向に倒すと割刃が前進し、中立にするとその位置で止まります。後方の矢印方向に倒すと刃はバックします。刃が戻りましたら手動切換レバーを中立にして下さい。

(注) 割刃が伸び切った時

割刃 (伸縮距離は 45cm、WS-190 は 40cm) が伸び切った時は、それ以上は伸びませんので手動切換レバーを更に前に倒すことはやめて下さい。

(ロ) WS-500 シリーズ、WS-750 シリーズ

手動切換レバーを前に倒すと割刃が前進し、手を離すと自動的にレバーが後に倒れ割刃はバックします。割刃が終端まで戻るとレバーは自動的に中立になり、割刃は停止します。バック途中で割刃を停止させたい場合はレバーを中立位置にして下さい。

(注) 割刃が伸び切った時

割刃 (伸縮距離は 58cm) が伸び切った時はそれ以上は伸びませんので手動切換レバーを更に前に倒すことはやめて下さい。

(ハ) 割刃の押え板の点検

割刃の裏 (ベースの下) についている割刃の押え板 (ボルト 2 本で止めてある) がついているかどうか毎日点検して下さい。

割刃が前進、後退する時にシリンダー・ロット部が曲がらない様にベースの下を割刃と一緒に走っています。ボルトの締め付けがゆるんで押え板が落ちた場合、シリンダー・ロット部が曲がる危険性がありますので注意して下さい。

(ニ) エンスト等で割刃がベースの途中で止まった時

手動切換レバーがバックに入っていますので (WS500、750 シリーズ) エンジン・スタートが困難です。その時は手動切換レバーを中立の状態にしてからスタータ・ロープを引いて下さい。

◆交換、補給、点検事項◆

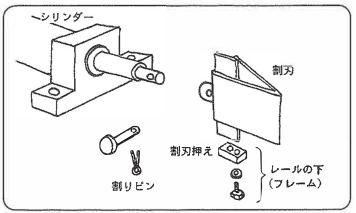
(1) 割刃の交換、研磨

(イ) WS-190、WS-350VS シリーズ

エンジンをスタートさせて割刃を前に出し、エンジンを停止してから下記の方法で刃の交換を行って下さい。

割刃の裏にある押え板のボルト２本を取りはずして押え板を取り、割刃のつけ根とシリンダー・ロット部のダブルナットをゆるめ、シリンダー・ロット部の切り込みをモンキーで廻して取りはずして下さい。

研摩はグラインダー等で行って下さい。



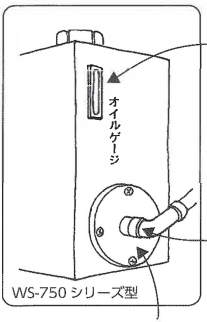
(ロ) WS-500 シリーズ、WS-750 シリーズ

エンジンをスタートさせて割刃を前に出し、エンジンを停止してから下記の方法で刃の交換を行って下さい。

割刃の裏にある押え板のボルト２本を取りはずして押え板を取り、割刃とロット部との取り付けピンを抜いて下さい。

研摩はグラインダー等で行って下さい。

(2) 油圧オイルの交換と補給



(イ)**油圧オイルタンク・キャップ**

油圧タンク内のオイルが減ったら必ず補給して下さい。(油モレ等が起きた時も) 但し、WS-190、WS-350VS シリーズは 9 分目位、WS-500 シリーズ、WS-750 シリーズはレベルゲージの中途以下にして絶対に満タンには補給しないで下さい。

油圧オイルの交換の目安は、油圧オイルが黒ずんで来たら交換して下さい (1 年に 1 回位)

※始動前は必ずオイル量を確認して下さい。

(ロ) **油モレ (油圧オイル)**

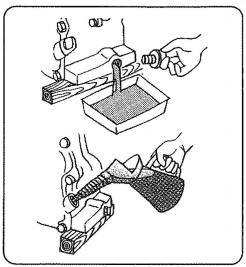
油モレが起きた時は、ホース金具接続部の増締めを行って下さい。

(3) 油圧タンク内のストレーナーの清掃 (WS-500、750 シリーズ)

・油圧オイルを交換する際はタンク内のストレーナーを取り外し、ゴミ等で目詰まりしていますのでストレーナーを灯油で清掃して下さい。

・劣化したオイルはタンクの底にドレンがありますので排出して下さい。

(4) エンジンオイルの点検

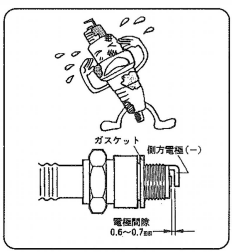


エンジンオイルは毎日点検して、必ず満タンにしておいて下さい。

エンジンオイルの交換

初　　回	20 時間運転後に交換
第 2 回以降	50 時間運転ごとに交換

1. オイル交換はエンジンを停止し、暖まっている時にドレンプラグを外してオイルを抜きます。
   オイルゲージを外しておくとオイルは早く抜けます。
2. オイルを注入する時は、ドレンプラグをしっかり締めてから注入して下さい。



点火プラグの清掃と調整

1. プラグがカーボンで汚れている場合は、プラグクリーナ又は、ワイヤブラシ等で汚れを落として下さい。
2. 電極間隙の広い場合は側方電極を曲げて、0.6 ～ 0.7mm に調整して下さい。

(5) 保管について

本機は屋外に放置しないで下さい。必ずシートをかけるか、屋内に保管して下さい。
（炎天下に放置しますと作動油が温まり作業時に、オイルタンクキャップより作動油がふき出すことがあります。）また作業終了時は木くず等を取り除いて下さい。

◆仕　様◆

	WS-190	WS-350VS シリーズ	WS-350VSLH	WS-500 シリーズ	WS-750 シリーズ
最長処理能力	40cm ～ 50cm	45cm ～ 50cm	55 ㎝	60cm ～ 100cm	60cm ～ 100cm 以上
破砕力	8.0t	8.4t	8.4t	9.1t	11.0t
エンジン	空冷ガソリン	空冷ガソリン	空冷ガソリン	空冷ガソリン	空冷ガソリン
	GB131LN-106	GB131PN-100	GB131PN-100	GB181PN-100	GB290LN-100
	4.2ps	4.2ps	4.2ps	6.3ps	8.0ps
重量	95kg	110kg	120kg	147kg	238kg
寸法（長さ）	145cm	140cm	152cm	175cm	185cm
（幅）	38cm	34.6cm	50cm	49cm	61cm
（高さ）	65cm	67cm	63cm	71cm	83cm
油圧ｼﾘﾝﾀﾞｰｵｲﾙ量	3L	4L	4L	10L	16L
油圧ｼﾘﾝﾀﾞｰｵｲﾙの種類	油圧作動油 32 番				

※この仕様は製品改良の為、予告なく変更する場合があります。

発売元（全国アフター網完備）

和光商事株式会社

□本　　社 〒141-0031 東京都品川区西五反田7-17-7 ☎03(5434)2751 (代) FAX03(5434)2597
□札 幌 営 業 所 〒007-0805 札幌市東区東苗穂5条3丁目3 ☎011(784)0311 (代) FAX011(784)4426
□東 北 営 業 所 〒020-0862 盛岡市東仙北1-12-25 ☎019(635)0824 (代) FAX019(635)0825
□東 京 営 業 所 〒336-0033 さいたま市南区曲本5-9-20 ☎048(845)0025 (代) FAX048(864)5555
□大 阪 営 業 所 〒583-0024 大阪府池田市鉢塚1丁目5-7 ☎072(734)6500 (代) FAX072(734)6501
□九 州 営 業 所 〒861-8001 熊本市武蔵ヶ丘9丁目2-40 ☎096(338)1260 (代) FAX096(338)1365
□業務サービス部 〒336-0033 さいたま市南区曲本5-9-20 ☎048(864)5636 (代) FAX048(864)5318

販売店